



たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校

令和7年7月18日

夏休み前号

【学校教育目標】

「夢と希望をもち、
よりよい社会づくりに向け
行動する児童の育成」

人として生きるということ

教頭 嶋 広志

今回は、私が、6年生を担当していた時の大切なお話をします。

修学旅行の前日には、学年集会を開き、日程と持ち物・行動の最終確認をしました。各学級で、道徳の教材本を利用して、資料を読み、皆で考えました。この話の中では、せっかくの修学旅行の夜だからと眠らずに夜更かしをしておしゃべりを続ける里香、それに追従する陽子、体調が悪くなり翌日に倒れてしまう千葉さんの女子3名が登場します。授業では、「だれの気持ちが一番わかるかな？」と問うことから始め、やがて「なぜ、約束やルールを守らなければならないのか？」と理由を問う課題に発展させました。子供たちの回答は次のものが多かったです。

「体調が悪くならないため」（健康面）、「先生に叱られないため」（賞罰の関係）、「友達との修学旅行を成功させるため」、「みんなが楽しく過ごすため」（集団意識と社会性）。この最後の回答が、6年生の道徳の目標（価値）に適うものです。本来、これで授業の達成ですが、ここからが本題です。さらに、追求してみました。教師：「じゃあ、周りに人がいなければ、誰もいなければ、バレなければ、約束を破ったり、買い物の時に万引きをしたりしてもいいんだね？」当然、否定の声が聞こえてきました。ここで、教師側から、話を始めました。

「約束やルール、歴史で学んだ憲法や法律も人が作ったもの。法も文化も、人が人らしく生きていける社会を目指して作られたもの。だから、人が人として生きていくために守るのでしょう。人が『人を殺（あや）めてはいけない』というのは理由なんか存在しない、ならぬことはならぬの世界ですが、人ではなくなってしまうからでしょう。『人としての尊厳』を守るために、私たちは法も文化も守るのかもしれない。だから、自分という人間の価値を下げるようなことはしないでください。誰が見ていなくても自分という自分らしさを大切にしてください。」

こんな話をしました。最終的には本能的な種の保存に帰着する問題ですが、子供たちには「人らしく生きていこうとすることの美しさ」や「様々なつながりの中で守られている命＝自分を大切にすること」を知って、感じてほしいと思うのです。

ある古いテレビ番組で若者たちを相手に、金八先生で知られている武田鉄矢さんが話をしていました。

「何のために、今努力したり、ルールを守ったりするのか？それは、この先、自分が辛いことや人生の難関にぶつかった時に、あの時、周りはふらふらしたり、ルールを破ったりしたけれど、自分は自分を大切にすることができた。がんばった自分がいた。だからこそ、そういう過去のがんばったことが自信に変わって、困難も乗り越えることができる。今、自分がこらえたり、がんばったりすることは、未来の自分を支えてくれるし、守ってくれるのだ。」

これも、「人として生きていこう」とすることの大切さや意味を教えてくれるのではないのでしょうか。

自己肯定感を高め、自身を愛し大切に思うことで、周りの人々や未来の自分も愛し支えていけるものではないでしょうか。